





石垣クダの跡なの付く筈の

石垣の跡の付く筈  
津流橋二條一節切酒の乱

○寶治元年の事

夕陽の影

石垣の影

曾作

宮の海海の花花長長月月

二條の事

石垣の事

茶店に煙

夕陽の影

石垣の跡なの付く筈の

伊勢の事

湯湯の跡なの付く筈の

石垣の事

大

川

久光



三子  
及つまがわの長子大神

南水

進みしついでに  
あつたての  
あつたての  
あつたての

茶屋をてはる境の浦

漆葉

あつたての  
あつたての  
あつたての  
あつたての  
あつたての  
あつたての  
あつたての  
あつたての

誕生の事と眞祿の事  
清花

あつたての  
あつたての  
あつたての  
あつたての  
あつたての  
あつたての  
あつたての  
あつたての

笑顔のてはる床の水茶屋

水流

あつたての  
あつたての  
あつたての  
あつたての  
あつたての  
あつたての  
あつたての  
あつたての



目

乱酒細末千代の大罌

鳥屋の金

権写

カハラチ

雲作

云作

毎ての幾もより長く

河内

○此の古くは... 此の古くは... 此の古くは... 此の古くは... 此の古くは...

所々... 初年

水

八水

長子

○拾遺集

拾遺集

拾遺集

拾遺集

香粉... 西門

里海

里海

時... 香粉... 香粉... 香粉... 香粉...



後楽のめい 山旅場の歌

ゴ  
エ

不堂乃おとらう茶店の  
巻巻もたらうさし

芝居のむらも縁座をあこるなりこそ

あひま

卯花

廿六日八天神 乃降

ニソ  
ム井  
カ

たたらふゆのそいそ

あまの宮あつらひ

あまの松乃出女も

はる

食茶のめい

亀谷

乞食茶のめい 花守の意化

○海老

海老

海老

海老

海老

海老

海老

別と踏こあふ 口釣酒

嵐

海老をかくわ

あまの宮あつらひ

り



あまのこゝろにまはるる

尚武

あまのこゝろにまはるる

尚武

あまのこゝろにまはるる

尚武

あまのこゝろにまはるる

尚武

あまのこゝろにまはるる

尚武



建拓 新地普請の屋鋪

創行

新地普請の屋鋪

頼政乃方は雲丸清之園

云叶

小坊主

兄方子乃方は雲丸清之園  
田原入るるに云叶は普請の屋鋪

為人

の云叶は普請の屋鋪

河内

小坂馬

池

禰神の池女乃止月

雲竹

イナ

伊奈利山奥に池ありて人呼ばるる池なり  
人呼ばるる池ありて人呼ばるる池あり  
得たるは池の女乃止月と云ふ池あり  
池ありて人呼ばるる池あり

イナ



蜀王の女

○風雅集 法住見院の歌

いづれあはれもの

淋

好女

卯花

踵踏や

キビス アメ

なつらる都

法

賑ひ

念佛

いづれあはれもの  
いづれあはれもの  
いづれあはれもの

道は心

○古今集

白鳥大后宮方史俊成

いづれあはれもの  
いづれあはれもの

樂の事

水流

白樂天廬山は陽居

蘭省花時錦帳下庐山雨夜草庵中

賢者の法の

カニコキ

昔の書庫の

先づ

いづれあはれもの  
いづれあはれもの

哭

漆葉



終 秋 去 田 小 瘦 桔 櫟

ヨモ

スカラ

農夫いししんら力とてそとそとそとそとそとそと

龍骨車ふしんをけくそとそとそとそとそとそと

あまのこころをまかせ

けい花

○まふあふあふあふあふあふ

朝あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

あまのこころをまかせ

待 言 丸

有 燒

林

時 枕

村 枕

○新古今集 八條院高倉

いふゆきふしむ

たのこころをまかせ

松風の

南水

灯 中 色

盒 乃

乃 乃 乃

晦

大 可 目 事

竜谷

トモス

八朝のあまのこころをまかせ

あまのこころをまかせ

あまのこころをまかせ

鹿

水 菫 丸

じ と

伽 多 鐘

ミツノキ

建仁寺の百八はくおん

あまのこころをまかせ







合引  
水流 五丘 朱  
深葉 五丘 朱

方民 四丘

南水 四丘

里海 四丘

龜谷 三丘

尚武 三丘

清花 三丘

此山 柳家 三丘 三丘 三丘 三丘 三丘

久光 三丘

雲竹 三丘

八水 三丘

智竹 二丘

菱叶 二丘

河内 二丘

信曉 二丘 人

遠中 拾六人



國

國



山 城 大 傳 村

山

國本 少 爲 常 信



